

2021 年度 グローバル地域文化学部自己点検評価報告

I. 教育活動

2021 年度に開講した主な科目について記す。

①必修科目（演習系）：1 年次対象の「グローバル地域文化導入セミナー」と「グローバル地域文化入門セミナー」（旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門セミナー」は 2 年次対象）では、文献読解、文献検索の方法、批判的思考、問いの立て方、発表の方法など、大学での学びの基礎を鍛えた。また、3 年次対象の「グローバル地域文化発展セミナー」、4 年次対象の「グローバル地域文化専門セミナー」では、卒業論文の執筆に向け、各セミナーにおいて基本文献の輪読をさせたり、各自のテーマを掘り下げ、先行研究を批判的に読み込ませたりするなどした。また 4 年次の学生には「卒業論文」の履修も課し、担当教員が卒業論文の執筆のための個別指導を行った。その結果、203 名が卒業論文の提出・審査を経て、合格と判定された（うち 5 名は春学期末に提出）。

②必修科目（講義系）：1 年次対象として「グローバル地域文化論」および「グローバル・スタディーズ論」を開講した。また、1 年次対象として「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門 I・II」（旧カリキュラムでは、「グローバル地域文化入門」および「グローバル地域文化の基礎」とし、2 年次対象）を開講した。「グローバル地域文化論」と「グローバル・スタディーズ論」は、コース横断科目であり、グローバルなレベルで生じている事象や問題を扱いつつ、グローバル地域文化論に関する基礎的な講義を行った。また、「ヨーロッパ/アジア・オセアニア/アメリカ研究入門 I・II」は、3 コースそれぞれに科目を設置し、各対象地域の現代事情など学生が関心を持って学べるようなトピックを取り上げた。

③選択必修科目（スタディ・アブロード科目）：学部独自科目として「海外インターンシップ」と「海外語学プログラム（英語）」を開講しているが、昨年度に引き続き、本年度も新型コロナウイルス感染症の影響のため、いずれも不開講であった。そうした状況に鑑み、昨年度に引き続き、3 年次生以上（2019 年度以前生）の選択必修科目 B 群未履修者に対して特別措置を講じ、「留学とキャリア形成」特別措置対象者用クラスの履修・単位取得により、選択必修科目 B 群（スタディ・アブロード科目群）の卒業要件を満たすものとした。併せて、選択科目 D 群（2016 年度以前生は選択科目 B 群）の「〇〇語で読む地域文化研究」から 2 単位以上取得することを推奨した。既に一定の条件の下で派遣留学が再開しており、2022 年度からは渡航を伴う留学プログラムも再開の予定であるが、今後も海外渡航が不可能となる事態が起こり得ることを考慮し、

また学部独自の特徴を有する科目として「グローバル地域文化学の発信」を新設し、後述する「グローバル地域文化学の実践1～5」と併せて履修することで、卒業要件を充足できる選択肢を拡充した。

④選択必修科目(講義系):留学経験を将来のキャリアに生かすため、留学経験を踏まえてグローバル人材となるための資質について考え、議論し、キャリア計画を立てることを支援する科目である「留学とキャリア形成-1」(通常クラス)は、コロナ禍以後留学プログラムが実施できていないため履修者がなく、休講となった。一方、「留学とキャリア形成-2」(特別措置対象者用クラス)は、126名の学生が履修した。

⑤選択科目:コースごとに当該地域の歴史的形成や文化の多様性、現代の課題など多岐にわたる内容の科目を開講した。学生は各自の関心に応じ、コース横断的にこれらの科目を履修した。また、学部独自の特徴を有する科目として、選択科目A群に国内フィールドワーク科目「グローバル地域文化学の実践1～5」を新設することになった。さらに、同じく選択科目A群に、この科目と併せて履修を推奨する「質的調査の方法」と「計量分析の方法」も新設した。

⑥その他:外部試験結果による英語科目の単位認定を実施している。

II. FD活動

本学部FD委員会の活動として、2021年12月に1年次生(2021年度生)と3年次生(2019年度生)を対象に学部教育への満足度・要望などを尋ねるアンケートを実施した。コロナ禍のため昨年に引き続きMicrosoft Formsを使ったオンライン形式で実施した。その結果、全般的には学部専門科目、外国語科目とも満足度が高いことが示された。一方で、個別のコメントから語学(英語・初修)科目の改善要求、対面授業増加への要求、コロナ禍で留学できないことに対する不安・不満が明らかになった。英語科目に関しては2022年度より新カリキュラムを実施し対応する。オンライン授業に関しては、2022年度から教室の収容定員が増やされる予定で、徐々に対面授業へ移行させる。ただし、対面授業に参加できない学生にはオンライン参加させるなど、オンライン授業の利点も生かしたハイブリッド授業を進める。留学に関しては、現地での実施を進める一方、渡航できない場合の代替措置(オンライン留学、国内で外国語に触れ異文化を体験できる科目)も実施予定である。今後これらの取り組みを進め、改善に努めたい。

さらに、2021年11月に近年言語教育において注目を集めているトランスランゲージングに関するオンラインFD研修会を開催した（参加者22名）。今後もこのようなFD研修会を開き、学部教育の質向上を図りたい。

父母懇談会は、コロナ禍の状況に鑑みオンライン開催とし、2021年11月12日（金）から12月10日（金）の期間、オンデマンド配信を行った。コンテンツは学部長挨拶、学部教育に関する説明、在学生による体験談、キャリアセンターによる「Withコロナの就職支援」で構成し、約180件のアクセスがあった。

Ⅲ. 研究活動

「グローバル地域文化学会」にて研究機関誌『GR』（論文、研究ノートなど）を2021年10月に第17号、2022年3月に第18号を発行した。

2021年12月11日（土）には第9回グローバル地域文化学会学術講演会「差別と偏見 そして共生へ」を主催し、高木俊介（精神科医・たかぎクリニック院長）、趙明浩（京都朝鮮中高級学校・校長）、中嶋涼子（車椅子インフルエンサー）による講演がZoomによるオンラインでなされ、学内の参加者を中心に活発な質疑応答が行われた。

また、2021年3月27日（土）にZoomによるオンライン講演会「「あの日から」のクロニクル」を開催し、渡部義弘（福島県立新地高校教諭）による講演がなされた。2021年6月29日（火）にZoomによるオンライン講演会「モスクワっ子は時代劇が好き？—ロシアにおける日本語教育と日本文化研究の実態」を開催し、フィオードロワ・アナスタシア（モスクワ国立研究大学高等経済学院）による講演がなされた。2021年7月24日（土）にZoomによるオンライン講演会「グローバルヒストリー&ヒストリーカルチャーワークショップ（歴史学の成果を現代世界の理解にどうつなげるか?）」を開催し、桃木至朗（大阪大学名誉教授）による講演がなされた。こちらの講演会については、下記リンクで視聴可能となっている。

<https://youtu.be/-liYzwKpSm8>

また、教員ごとに、著書、論文執筆に加え、学会発表などを通じた研究活動を活発に行った。詳細は、本研究者データベースを参照されたい。

(URL: <https://kendb.doshisha.ac.jp>)

IV. 国際交流活動

コロナ禍の続いている影響で学部独自の国際交流活動が少なくなった。

学部独自の海外インターンシップと語学プログラムはオンラインでも実施されず、休講となった。全学のサマー・プログラムなどにオンラインで参加した学生もいた。

海外からの受け入れ研究員はアーモストフェローだけであった。Elizabeth Sturley (エリザベス・スターリー) 氏は 2020 年 9 月 1 日からの予定を続けて、2021 年 8 月 31 日までアーモストフェローとして学部に貢献した。

V. 社会貢献活動

大学の枠を越えた本学部教員の活動として以下のものがあった。

穂山洋子准教授

大学入学準備講座「国家と言語—多言語国家スイスから考える」(オンデマンド配信講義)。

南山大学ヨーロッパ研究センター講演会で講演「外国人過多 (Überfremdung) という概念」(2022. 01. 11)。

歴史家ワークショップ主催「Front Runner Series : 多言語論文執筆セミナー」にて、ドイツ語による論文執筆体験について講演 (2022. 03. 17)。

石井香江准教授

公開研究会「職場のジェンダーギャップ—歴史・現在・未来—」を同志社大学で開催 (2022. 02. 19)。

ジェンダー史学会理事として、第 18 回年次大会を本学で開催 (2022. 12. 12)。

日本ドイツ学会幹事として投稿論文の査読を行った。

見原礼子准教授

長崎市私立幼稚園協会教師研修会で講演「情報化社会における子どもの身体性を取り巻く環境の変化」(2021. 08. 27)。

BPW 長崎クラブ主催講演会で講演「ポスト・グローバル化社会における異文化理解と日本の課題」(2021. 09. 02)。

ペレス・リオボ アンドレス准教授

他大学の教員と共同でメキシコ、カルメン大学でのスペイン語オンライン留学プログラムを企画。

清水穰教授

レクチャー&トーク「Wolfgang Tillmans の芸術」(前橋ファッションスタジオ Zoom-Webinar 2021.06.09)。

名和晃平へインタビュー (タカイシイ・フォトグラフィー 2021.06.19)。

北井一夫とトーク「柳沢信と北井一夫」(ユミコチバアソシエイツ YouTube 配信 2021.06.25)。

鷹野隆大とトーク (国立国際美術館 2021.08.28)。

レクチャー&トーク「Gerhard Richter 全解」(前橋ファッションスタジオ Zoom-Webinar 2021.10.16)。

柘田倫広、鈴木俊晴との鼎談「Gerhard Richter 回顧展をめぐって」(国立近代美術館 2021.10.27)。

松江泰治との対談 (東京写真美術館 2022.01.08)。

オットマン エスタ・ティナ准教授

CISMOR による Special Zoom lecture「Stolpersteine remembrance-An intercultural and traumatic reevaluation of the Kindertransport」(2021.11.13)。

京都大学人間・環境学研究所による国際会議「Global Transformation of Christian Zionism」にコメンテーターとして参加 (Zoom 2021.10.23-25)。

ウヤル アイスン准教授

日本トルコ文化協会主催、トプカプさろんにて講演「トルコの食文化とグローバリゼーション」(オンライン 2022.01.23)。

二村太郎准教授

西陣まちおこしの会の役員。

和泉真澄教授

「NHK 週刊まるわかりニュース」での解説「アジア系ヘイトの背景には」(2021.05.15)。

「NHK N ラジ」での解説「アメリカでアジア系住人への差別が生まれる背景には？」(2021.06.08)。

立林良一准教授

日本スペイン協会の西検委員。

VI. 学生支援活動

①学習支援：外部の外国語（英語・初修外国語）検定試験の受験に際し、受験料の半額補助を行なっている。また、TOEFL ITP®に加えて、前年度に引き続き IELTS の集中対策講座（オンライン）を実施するなど（検定試験の団体受験は中止したが）、新型コロナ感染拡大により留学の機会が失われるなか、語学力向上のための機会をさまざまな形で提供した。

②キャリア形成支援：「グローバルキャリア・シリーズ」と銘打った本学部生向けのキャリア説明会を計7回開催した。新型コロナ感染拡大の状況に鑑み、第1～6回はZoomで、第7回はTeamsでオンライン開催した。また、当日参加できなかった学生の要望に応え、第1・2・5・6回は学内限定・期間限定でオンデマンド動画配信も行った。第7回は、各種メーカー・マスコミ・金融・運輸・公共・サービス業・コンサル等さまざまな業種に内定している10名の本学部4回生に就職活動の体験談を語ってもらった。また、各講時の後半は個別相談の時間を設け（各講時4つのチャンネルに分かれて実施）、個々の質問に直接答えてもらった。今回は大学院進学についても体験談と相談を行った。

第1回 樋口麻美氏（株式会社 value 取締役）「グローバルキャリア奮闘記—日本と東南アジアをつなぐサービスを起業—」（5月21日）参加人数：45名（Zoomアクセス数）

第2回 渡辺靖氏（ソニー株式会社 経営企画部門 担当部長）「ソニー：グローバルに、自由に楽しく働くこと—」（6月11日）参加人数：31名（Zoomアクセス数）

第3回 尾関允崇氏（国土交通省東京航空局 成田空港事務所 航空管制官）「空の安全を守る航空管制と大学での学び」（7月2日）参加人数：20名（Zoomアクセス数）

第4回 北原岳哉氏（四季株式会社 関西営業部）「劇団四季の『経営スタッフ』」（10月26日）参加人数：28名（Zoomアクセス数）

第5回 打田篤彦氏（京都大学森里海連環学教育ユニット 特定研究員）「外部進学してみたら—村々を越境する専門教育体験—」（11月16日）参加人数：12名（Zoomアクセス数）

第6回 高田彩子氏（NHK 大型企画開発センター デジタル開発ディレクター）「世界とつながり続けるために—公共メディアで考えた次の一手—」（12月16日）参加人数：13名（Zoom アクセス数）

第7回 本学部学生（2017・2018年度生）「先輩に聞いてみよう！GR学部生の就活体験談」（1月13日）参加人数：28名（Teams）

以 上